

平成 26 年度 第 1 回
袋井市行政改革推進委員会 会議録

日 時：平成 26 年 6 月 23 日（月） 18：28 ～ 20：37

会 場：袋井市役所 4 階 庁議室

委 員：日詰一幸会長、大場規之副会長、秋山憲治委員、玉井まゆみ委員、
寺田陽子委員、中山勝委員、西尾新太郎委員、西尾久代委員

議 題

- (1) 袋井市の行政改革（これまでの歩み）及び第 1 次行政改革大綱について
- (2) 第 1 次行政改革大綱の取組について
- (3) 第 1 次行政改革実施計画（後期）の進捗状況について（平成 25 年度実績）
- (4) 第 2 次行政改革大綱及び実施計画（前期）策定方針について
- (5) 第 2 次行政改革大綱及び実施計画（前期）策定スケジュール（案）について
- (6) 第 2 次行政改革大綱策定に向けた今後の展望について
 - ア 時代の潮流と袋井市の現状について
 - イ 意見交換（今後の展望）

<会議の概要>

1 会長及び副会長の選出

袋井市行政改革推進委員会条例第 5 条に基づき、互選により選出された。

会 長 日詰一幸 委員 静岡大学 人文社会科学部 教授

副会長 大場規之 委員 (株)和田塾 代表取締役

2 議題

第 1 回目となる会議では、袋井市の行政改革の歩みやこれまでの取り組みについて情報を共有した。

平成 25 年度の実績については、54 項目に取り組み、完全実施が 38 項目（実施率が 70.4%）、一部実施が 16 項目という結果を報告した。なお、一部実施の項目については、完全実施できなかった理由や要因などを説明し、目標達成に向けて更に取り組んでいくこととなった。

また、第 2 次行政改革大綱及び実施計画（前期）の策定方針及びスケジュール（案）について、事務局が説明をし、取り組み事項の確認や共有化を図った。

第 2 次行政改革大綱策定に向けた今後の展望についての意見交換では、様々な視点から、意見等が出された。

市長挨拶	<p>平成 18 年から行革を行い、一番印象に残っているのは職員の定数管理や補助金を節約してきたこと。</p> <p>いろいろな行革があるなか、袋井市はあまり組織を変えてこなかったが、今の時代に袋井市の組織が合っているのか是非検討する必要があると思う。</p> <p>市の産業構造が変化していく時に、袋井市は少ない職員がよりよく、市民のために働き、市民の期待に応え、リードしていくために職員の資質、それから組織をどう考えるかを行革の中で考えていただきたい。</p> <p>総合計画と同様に 28 年から 10 年間の行革大綱を定めていくが、両方がパラレルの関係で袋井市の大きな運営の基準になるため、委員の方々には厳しい目で発言していただきたい。</p>
会長挨拶	<p>袋井市は、高齢化率が低く人口も微増しており、いいこと尽くめの状況が続いているが、あと数年もすると、陰りがみえてくる厳しい状況にある。</p> <p>今のいい時期に、これから 10 年先の見通しを立てて、市役所をどう経営していくかといった観点で委員の方のお力、お知恵をいただきながら、この会を進めていきたいと思っている。</p>
委員	<p>[議事]</p> <p>資料中の待機児童というのは保育園に入りたくても入れないという意味か。ニーズが増えているのか。</p>
事務局	<p>公立・民間の保育所において、保育の定員を増やしているが、まだ溢れてしまっているという問題がある。待機児童ゼロを目指している。</p>
副会長	<p>前期の成果の計り方について、人が何人減った、金銭的にいくら効果が出たという、人とお金で計る指標になっているが、次もその指標で考えているのか。</p> <p>また、個人的に行政改革という言葉を知ると、人も絞り、金も絞りというネガティブなイメージが強い。しかし、先程の資料の定義には、人も絞り、金も絞りということは書いていない。</p> <p>絞るだけでなく、定義にあるようにプラスの効果はどうするかを考えていくべき。また、我々が何を目指して行政改革をするのか、総合計画と何が違い、管理しているのかももう一度再確認する必要がある。</p>

事務局	<p>今まで定員適正化計画に基づき、人員を削減し、財政面も圧縮してきたが、指標の在り方については、プラスの効果も含めて委員のみなさんに意見をお聞きしながら考えていきたい。</p> <p>総合計画と行政改革の位置づけについては、それぞれ議論する中で、整合するような形で進めていきたい。</p>
委員	<p>資料に公共サービスの担い手の変遷という図があるが、総合計画と行政改革の関係では、市民を巻き込む総合計画に主体的に参加する立場と行政改革に参加するような立場では違うと思うが、市の考えはどうか。</p>
事務局	<p>市民の活動が広範囲になり、様々な視点で行われ、市民の価値観が多様化することにより公共の範囲が変化、拡大し、行政側が公共サービスを提供するだけでなく、いろいろな主体が提供していかないと後の経営としては、公共を支えていけないということでこのような図になっている。</p> <p>立場については、総合計画で決めた計画を、行政改革がしっかりとできるように、後押しする立場となっている。</p>
会長	<p>総合計画で目標設定されていることと、行政改革で充分できなかったことの関係性や仕分けも必要となってくる。</p> <p>また、行政も仕事の仕方が変わる中で、市民の満足度も上がっていかねばならないので、指標の取り方も大事になってくる。</p> <p>人がどれだけ減ったのか、お金を削減できたと同時に、そのことで、逆に市民満足度が下がっていくのでは、意味がない。</p> <p>仕事の仕方が変わり、いい仕事ができ、しかも市民の満足度が上がるということが一番いいやり方であり、それに向けて議論していかなければならない。</p>
委員	<p>資料を見ると行政改革の必要性で、ポイントが「効率的、効果的な」とあり、「効率的な」という所では、コスト優先のことを言っている。</p> <p>第1次の行政改革ではそうしてきたと思うが、第2次では市民満足度や、市がどのような方向性で行くのかを考え、「効率的、効果的な」の言葉を逆転して指標を変えるということも必要かと思う。</p>
委員	<p>市長のあいさつで少ない人をどう活用するかについて、女性と高齢者の活用と言っていたが、60代、70代をどううまく活用するか、80代になると</p>

なかなか動けなくなるので、60代、70代のうちにどう働いてもらうか考えていかなければいけない。

また、待機児童について、あの数字でいかに要望が高いということが初めて数字でわかった。

税制上でも配偶者特別控除がなくなったりして、旦那さんの扶養となっても得するというのがなくなってきているので、女性が働きやすい環境、税制になっていかなければならない。

子どもを預けたいけど、預けられなくて働けない、そこをうまく提供してマッチすれば、より女性が働けて袋井市が良くなっていくと思う。

委員

女性職員の話となるとM字カーブが袋井市の女性職員もそのような形になっているのか。もし、女性職員をより活用していくという話になれば、M字をなくせるような仕組みはどうしたらいいのかを考えていく必要がある。

もう一つ組織として、担当課だけではなく、例えば、農の関係で市民農園を市民の方だけでなく、交流人口を増やしていくということ観光の課と一緒に体験型農園にしていき、首都圏から人も来ていただいて、こちらで活用していくことも考えられる。

また、工業用地の空いているところを考えたときに、植物工場ができれば、植物なので人に頼る部分がたくさんあり、女性の感性とか、強みが活かされる部分が出てくる。

就業の部分だけでなく、市民の心の豊かさの部分、税収の部分など複数の分野で物事を考えていくことが、重要だと思う。各課でネットワークを組みながらやっていく方がこれからは重要になってくると感じる。

委員

ネットワークというのは必要だと思う。自分も男女共同参画に関わっているが、そちらの中でも、ワークライフバランスに関して、非常にいい資料も出ているので、そういったものも、出してもらえると非常にいいと思う。

待機児童の関係についても、ここ数年で解消されていて、今回16人と多くなっているが、他の市町に比べると、非常に袋井市は改善を図っていて、社内の女子従業員からもいい環境になっていると聞いている。

今年度、16人ということで、どのように改善していくのか注目している。

もう一点、女性が働きやすい環境にするには、出産、不妊治療等について重要になるが、不妊治療の施設が少ないというのが、袋井市の現状であ

	<p>ったかと思う。</p> <p>市から助成金が出るが、他の市町に行って不妊治療をしているというのが現状で、市では十分な治療は得られないという傾向にあったと思う。</p> <p>また、高齢者の方が多く介護認定を受けるまでの期間がかかり、この対応方法も問題になっていくのではと感じている。</p>
会長	<p>女性の活用を巡って、市の施策として、出産や不妊治療に対して、どういう風に向き合うのかというのは、総合計画とのからみも出てくるが、これらがうまく回っていけば、子育てしやすい街になり、若い世代も入ってくることで、税収が増えるという方向に繋がる可能性もある。</p>
委員	<p>他の市では、子どもを預けるところが埋まってしまっているのので、私の職場でも仕事に復帰するには袋井市ということで、いい環境であると聞いている。</p>
委員	<p>袋井市の行政改革は、はじめは量的な対策から質的な部分に変わり、今後は単なる経費の節減ではなくて、質的な意味での向上という話があった。</p> <p>行政が絶対に市民サービスを行うしかないところで、市民が逆に市がなんでもしてくれるという風潮を産み出すことを心配している。</p> <p>市自体が市民の自覚をどれだけ促すかというのも、今後ひとつの課題になることと、あくまで協働するという立場であって、何かあると市に依存してしまう体制をつくらないように目配りしたいと思う。</p>
会長	<p>市がやらなければならない責務とそれ以外の所で、他の主体がパートナーシップや役割分担の話につながっていくか、その話も大事なことだと思う。</p>
委員	<p>介護、福祉の面で市とNPO法人がうまく連携をしている。この部分は市で、この部分はNPOでという形で、NPOの方がすごく活躍しているので、ありがたいと思っている。外の分野でもうまく連携し、それぞれ担う部分が明確になればと非常にいいと思う。</p>
委員	<p>私は、今農業というものが、行政的にも受け皿として変わってきているように思う。</p> <p>農業委員会については、一週間ほど前の新聞記事に農業委員会の選挙制</p>

度の在り方について載っていた。

私も、地元の自治会長を今年度受けることになり、農業従事者や部農会という組織について農業委員選挙もあるため把握しようとしたが、自治会は何年も把握していない状況だった。

要するに、袋井市は農業関係に力を注いでいるというのが形骸化してしまっていて、実際には地域によって農業を主体にやれている世帯は数える程ない状況になっている。

農業従事者や農業委員が何かを相談しようと思ってもその場がなく、困ることもあるのではないかな。

私の受け取り方が悪のかもしれないが、農に力を注いでいると言っているので、市役所としても根となる部分をしっかり固められているのか気になった。

委員

会社を経営していると、売り上げがあつて、従業員ががんばって働くように教育して、経費を節約として、利益を出してと一つのもが見える。

袋井市のキャパシティは、すごく大きいので全体を把握するのが大変。

何年か前に、1歳と3歳の子どもを抱えたお母さんがどうしても、保育園に預けて働きたいと行って来たときに、もうちょっとだけ我慢して、旦那さんのお給料で質素に暮らして、なんとか子どもが大きくなって自然に幼稚園・保育園に入れるまで、どんなに慎ましく暮らしてもこの1歳の子を預けて働くということを考えないで、と採用しなかった。

扶養でいると損、働かなくてはということから、保育園が空くのを待って、預けて働くのではなく、袋井市に住んでいれば安心して子どもが産めて、子どもが3歳、4歳になるまで自分で子どもをしっかり見る。

そういうことができるような市になってほしいといつも思っている。

小さい子どもを持つ母親が働きやすい環境をつくるという視点とは違うが、私はいつもそう思って、女性従業員を採用する時は、もうちょっと我慢して、と助言し今までやってきた。

委員

会社を経営していたら、人口の減少や税収が減っていくことを黙って見てない。それを増やしたらどうなのか、もしくは、増やせるようにいかに努力するか、という所に経営者は1番の関心を注ぐ。

行政は、比較的成り行きに合わせて、どう対策していくかになりがちだが、見通しに対して、そうならないためにどうしていくのかも我々のひとつ役割としてあるので、資料として推測ができるのであれば見てみたい。

会長

指摘のように、袋井市の現状をみたときに、良さそうな面とこれから不安と思う所がいくつかあり、今後どのように推移する可能性があるのか、研究している素材があるのなら、提示してもらいたい。

袋井市職員の数は、人口千人当たり5.5人ぐらいだが、県内には更に少ない所があり、九州のある市は、4人ぐらいで相当絞り混んで仕事をしているが、そのポイントとしては、アウトソーシングとコミュニティーの方々にいろいろと助けてもらい、行政面をやっている。

先進自治体では、相当に工夫していて、ワンストップなど市民の満足度を高めるようないろんな取組をしている。

先進事例も知った方がいいと思うので、いろんな情報が事務局でも掴めるようであれば、いただけると有り難い。

特に、フリーディスカッションの中で出てきた、女性職員のあり方をもう一度顧みてはどうか。

人材育成の話に関わってくるが、女性の方々も能力のある方ややる気、意欲のある方をうまく抜てきされて、いいモデルができればと感じた。

また、農業は袋井市の強みでもあるので、その強みをさらに伸ばすために、どういうやり方があるのか検討が必要だと思う。

委員の皆様から、とてもいいご意見があったので、事務局でまとめて次の委員会の議論の参考として下さい。

以 上